

第七十三回帝國議會
衆議院

國家總動員法案委員會會議錄(速記)第二回

付託議案
國家總動員法案(政府提出)

會議

昭和十三年二月二十八日(月曜日)午前十一時八分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 小川郷太郎君

理事中村不二男君 理事豐田 豐吉君

理事中山 福藏君 理事西岡竹次郎君

理事篠原 義政君 理事井阪 豐光君

理事西尾 末廣君

齋藤 隆夫君 櫻井兵五郎君

古屋 慶隆君 増田 義一君

山本 厚三君 林 平馬君

眞鍋 儀十君 眞鍋 勝君

池田 秀雄君 小山 谷藏君

高橋壽太郎君 川崎末五郎君

長井 源君 河野 一郎君

小高長三郎君 泉 國三郎君

羽田武嗣郎君 板野 友造君

河上 哲太君 熊谷 直太君

植原悦二郎君 猪野毛利榮君

牧野 良三君 若宮 貞夫君

岩元榮次郎君 藤本 拾助君

山崎 常吉君 清瀨 一郎君

守屋 榮夫君 三輪 壽壯君

淺沼稻次郎君 今井 新造君

三田村武夫君

同月二十六日委員宮澤胤勇君辭任ニ付其ノ補闕トシテ小山谷藏君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

外務大臣 廣田 弘毅君

海軍大臣 米内 光政君

司法大臣 鹽野 季彦君

陸軍大臣 杉山 元君

逓信大臣 永井柳太郎君

農林大臣 伯爵有馬 頼寧君

商工大臣 吉野 信次君

鐵道大臣 中島知久平君

拓務大臣 大谷 尊由君

文部大臣兼 侯爵木戸 幸一君

厚生大臣 末次 信正君

出席政府委員左ノ如シ

內閣書記官長 風見 章君

法制局長官 船田 中君

企畫院總裁 瀧 正雄君

企畫院次長 青木 一男君

企畫院部長 植村甲午郎君

企畫院部長 橫山 勇君

企畫院書記官 內田源兵衛君

對滿事務局次長 原 邦道君

內閣情報部長 橫溝 光暉君

外務政務次官 松本 忠雄君

外務參與官 春名 成章君

內務政務次官 勝田 永吉君

內務參與官 木村 正義君

內務省警保局長 富田 健治君

大藏政務次官 太田 正孝君

陸軍政務次官 加藤久米四郎君

陸軍參與官 比佐 昌平君

陸軍少將 町尻 量基君

海軍參與官 岸田 正記君

司法參與官 藤田 若水君

司法省刑事局長 松阪 廣政君

文部政務次官 內ヶ崎作三郎君

農林參與官 助川啓四郎君

商工政務次官 木暮武太夫君

逓信政務次官 田島勝太郎君

鐵道參與官 金井 正夫君

厚生次官 廣瀨 久忠君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

國家總動員法案(政府提出)

○小川委員長 是ヨリ開會致シマス、先ヅ

政府ヨリ提案ノ理由ノ説明ガアリマス――

廣田國務大臣

○廣田國務大臣 此機會ニ於キマシテ更ニ

一言御説明申上ゲマス、本案ハ現代戰ノ特

質デアアル所ノ國力戰ノ必要ニ應ズベキ所要

ノ措置ヲ、戰時ニ際シテ敏速ニ講ジ得ベキ

根據ヲ規定シタモノデアリマシテ、斯ノ如

キ戰時發動ヲ必要トスル政府ノ權限ノ大綱

ハ、大體之ヲ豫定シ得ル譯デアリマスカ

ラ、豫メ議會ノ協贊ヲ經テ之ヲ定メテ置キ

マシテ、其範圍内ニ於テ政府ガ戰爭ノ實際

ノ狀況ニ即應シマシテ、臨機ノ措置ヲ講ジ

得ルコトト致シマスルノガ適當ト考ヘマ

ス、尙ホ斯クシテ國家總動員ニ關スル國家

權力發動ノ態樣ヲ、豫メ國民一般ニ了解セ

シメ置キマスコトハ、國家總動員準備ノ進

捗ニ資スル所以デアアルノミナラズ、有事ニ

際シ國民ノ自發的協力ヲ容易ナラシメ、法

令執行ノ圓滿ヲ期スル上ニ、必要デアリマ

ス、殊ニ我國ハ國家總動員ノ經驗ニ乏シ

ク、又其資源ノ狀況等ヲ考ヘマシテモ、特ニ

本法制定ノ必要ヲ感ズル次第デアリマス

國家總動員ニ關スル我國ノ法制トシマシ

テハ、大正七年制定セラレマシタ軍需工業

動員法が存スルノデアリマスガ、同法ハ軍需充足ノ爲メ國內工業力ヲ動員スルコトヲ主眼トスルモノデアリマシテ、隨テ其規定事項ノ範圍内ニ於テ、前述ノ如キ國家總動員ノ目的ヲ達成スル爲ニハ、固ヨリ不十分ナノデアリマス、而シテ今回ノ支那事變ニ於キマシテハ、差當リ曩ニ御協賛ヲ經マシタ臨時諸法律ニ依リマシテ、軍需工業動員法ノ足ラザル所ヲ補ヒ、應急ノ措置ヲ講ジツ、アルノデアリマスガ、時局ノ推移如何ニ依リマシテハ、更ニ一段ノ國家統制ヲ必要トスル事態ヲ生ズル場合ナキニシモアラズト考ヘマスノデ、此意味ニ於キマシテモ本法ノ制定ハ緊急ヲ要スルモノト認メテ居ルノデアリマス

本案ノ内容ハ大體ニ於テ軍需工業動員法及ビ事變關係ノ臨時諸法律ニ規定セラレタル事項ガ、其根幹トナツテ居リマスガ、規定ノ形式ガ大綱ニ止マリ、細部ヲ命令ニ委任致シテ居リマスノハ、其内容ガ事態ノ程度等ニ從ツテ變化致シマス關係上、豫メ細部ニ互ツテ之ヲ豫定スルコトガ困難デアアル爲メデアリマシテ、戰時事態ノ變化ニ即應シ、迅速且ツ適切ナル措置ヲ講ズルコトガ戰爭ノ本質上緊要デアアルノデアリマス、又是等ノ措置ノ詳細ヲ豫メ外部ニ現ハシマスコト

ハ、國防上ノ機密ヲ暴露シ、得策ニアラザル場合モ考ヘラル、次第デアリマス
又本案ニハ平時ニモ適用セラレル規定ヲ含シテ居リマスガ、是等ノ事柄ハ前以テ平時ヨリ準備ヲ必要トスル事柄デアリマス同時ニ、戰時ニ際シテモ必要ナ事柄デアリマス、而シテ本案規定ノ各條項ハ相互ニ關聯ヲ有シマスノデ、是等ノ條項ヲモ加ヘマシテ、一貫セル國家總動員ノ體系ヲ形造ツテ居ル次第デアリマス

本案ノ内容ハ人員、物資、施設等各般ノ統制事項ニ互リ、隨テ國民生活ニ大ナル關係ヲ有シテ居リマスノデ、是ガ運用ニ付テハ其適切ヲ期スルコトガ極メテ肝要デアリマシテ、特ニ審議會ニ關スル規定ヲ設ケタノモ、此趣旨ニ副ハンガ爲メデアリマス
尙ホ本會議ニ於テ本法案ト帝國憲法トノ關係、竝ニ國政運用ノ方針ニ付テ重要ナル御質問ガアツタノデアリマスガ、其際國務大臣ヨリ答辯致シマシタ通り、政府ニ於テハ、本法案ハ決シテ憲法ニ違反スルモノデナイト堅ク信ジテ居リマス、又我國ノ國政ノ運用ハ立憲ノ本義ニ基キ、帝國憲法ノ條章ヲ尊重シテ行ハルベキハ申上グル迄モナイ事デアリマシテ、本法ノ制定ニ依リ、此方針ニ寸毫モ影響ヲ及ボスベキモノデナイコト

ヲ深く信ズル次第デアリマス

要スルニ國家總動員ハ國民ノ愛國心ヲ基礎トシ、舉國一致ノ協力ニ依ツテ初メテ其效果ヲ完ウシ得ルノデアリマス、政府ハ時局ニ鑑ミマシテ、國家總動員ノ實施ニ法的根據ヲ與フルノ必要ヲ認メ、茲ニ本法ヲ提出シタ次第デアリマス、何卒十分御審議ノ上、速ニ御協賛アラシコトヲ切望致シマス

デアリマス、斯ル法案ヲ審議致スニ付キマシテハ、國政變理ノ大任ヲ負ウテ居リマスル所ノ總理大臣自ラ陣頭ニ起ツテ、御説明ナルコトガ當然デアリマス、去ル本會議ノ御提案ノ時ニモ、總理大臣ガ御病氣デ御出席ニナレナイト云フコトデアリマシタ、洵ニ總理大臣ノ御病氣ニ對シテハ御同情申シ、切ニ御加養アラシコトヲ希望スルノデアリマス、併シ本會議當時ノ光景ヲ見マシテモ、總理大臣ガ出席致サレザリシガ爲ニ、根本的ノ質問ニ對シテ殆ド御答辯ガナカッタヤウナ狀態デアリマス、今日此委員會ヲ開クニ付キマシテハ、總理大臣ガ御病氣デアレバ是ハ致方ナイコトデ、御加養ヲ切ニ御願致シマスガ、ソレニ付キマシテ委員長カラ若シ政府ト豫メ御打合ガアツテ御了解デアルナラバ、總理大臣ガ出席サレナイ理由、又豫メ何日頃出席サレルノデアアルカ位ノ、全委員ニ納得ノ出來ル御報告ガアツテ然ルベキデアルト思ヒマス、之ニ對シテ委員長ハ、此公開ノ席上ニ於テ總理大臣ノ御容態、又總理大臣ガイッ何時御出席サレテ、如何ニ此審議ヲ取運ブノデアアルカ、此場合ニ委員長ノ明確ナル御説明ヲ伺ツテ、吾々將來ニ處スル參考ニ致シタイト思フノデアリマス

○植原委員 只今ノ委員長ノ發言ニ付テ、發言ヲ求メテ居ルノデアリマス
○小川委員長 ソレデハ植原君
○植原委員 只今外務大臣ノ本案提出ノ説明ヲ伺ヒマシテモ明瞭デアアル如ク、茲ニ問題トナツテ居リマス所ノ國家總動員法案ハ、我が立憲政治始メ以來初メテノ、殆ド劃期的ト申スカ、革命的トモ申スベキ大法案デアルト思ヒマス、此法案ノ關スルコトハ、憲法第二章ノ臣民ノ權利、義務、生命、財産、自由等ヲ總括的ニ左右スルモノデアリマスノデ、國民生活ノ全部ニ及ボスモノ

○小川委員長 此法律案ハ重要ナル法律案

デアリマスカラ、是非總理大臣が御出席ノ上デ、提案ノ説明竝ニ質問ニ對スル應答ヲシテ貫ヒタイト考ヘタノデアリマス、一昨日常理事會ヲ開キマシテ、其席上デモ大體サウ云フヤウナ御希望ガアリマシタノデ、委員長ハ政府ノ方ニ其趣旨ヲ申述ベマシテ、是非總理ニ今日ノ委員會ニ御出席ヲ求メタノデアリマス、然ル所近衛首相ハ昨日マデ病氣ハ好ササウデアッタノニ、又熱ガ大分出マシテ、主治醫カラドウシテモ登院スルコトハイケナイト云フコトデアッタサウデアリマシテ、先ヅ醫師ノ診斷ニ依レバ、今ニ三日ハ登院ガ出來ナイ、斯ウ云フコトデアリマシタ、ソレデ政府ノ方デハ首相ニ代ツテ、廣田外務大臣ガ提案ノ理由ヲ御説明ニナツヤウナ次第デアリマス

○川崎委員 議事進行ニ付テ……

○小川委員長 提案ノ理由ヲモウ一ツ聽イテカラ後デハ如何デセウカ

○川崎委員 植原君ガ議事進行ニ付テ御發言ヲセラレタ序ヲ以テ、私モ議事進行ニ付テ御伺フシタイ

○小川委員長 デハ川崎君

○川崎委員 此二三日来市内ノ各所ニ於キマシテ——此處ニ寫眞ヲ持ッテ參リマシタガ「國家總動員法案ニ反對スル者ハ現狀維持

ノ走狗ナリ」一月會ニ斯様ナ立看板ガ市内ノ各街頭ニ立掛ケラレタルデアリマス、尙ホ私ハ實物ヲ見マセヌケレドモ、同様な趣旨ヲ以テ電信柱其他ニ、同ジヤウナ意味ノ張札ガ各所ニアルヤウニ伺ッテ居ル、ソレハ私ハ見マセヌ、唯人ノ話デサウ聽イタ、是ハ現認シ、且ツ寫眞ヲ撮ッタ、殊ニ是ナドハ極ク近イ所デ、四谷カラ此附近ヲ——一區ノ四分ノ一カ八分ノ一程見マシタ場合ニ於キマシテ、既ニ八箇所、而モ所ニ依リマスレバ左右兩側、東西兩側ニ麗々シク斯様な立看板ガ多數ニ立掛ケラレタルデアリマス、此議會ニ經驗ノ薄イ私達ヲ以テ見マスレバ、是等ハ判斷ニ苦シムノデアリマス、先輩ノ御話ヲ伺ッタ所ニ依リマシテモ、從來我國ニ於テ、假令政府ノ提案ニナル法案ニ付キマシテ、是ガ如何ニ重大ナル法案ニ付キマシテモ、議會ノ審議中ニ於キマシテ斯様な意味ノ立看板ガ、市内ニ多數立掛ケラレルト云フコトハ、未ダ曾テ例ヲ見ナカッタコトデアルト伺ッテ居ル、今回ノ總動員法案ハ成程重要デアリマス、隨テ吾々ハ此法案ニ付テハ眞劍ニ、眞面目ニ國家ノ爲ニ御奉公スル意味ニ於テ、此審議ニ當リタイト、窃ニ覺悟致シテ居ルデアリマス、隨テ斯様な立看板ガ何万市内ニ立掛ケラレ

ヤウト、私達ハ之ニ依ッテ何等自己ノ心理ニ影響ヲ蒙ルモノデハアリマセヌ、併シ現在ノ世ノ中ノ流れ、世ノ中ノ有様ヲ見マスルト、或ハ斯様な看板ヲ立テル者ニ於キマシテハ、如何ナル動機ノ下ニ、如何ナル意圖ノ下ニ斯様なモノヲ、多クノ無駄ナ金ヲ使ッテ立テルカト云フコトニ付キマシテハ、今更私ハ申上ゲナクテモ、想像ニ餘リアルコトガアルヤウニ思フノデアリマス、果シテ斯様な意圖ノ下ニ行ク者ガアルト致シマスレバ、又議員多數ノ者ニ於キマシテハ——私ハ斷ジテ斯様なモノニ依ッテ自己ノ信念ヲ枉ゲタリ、脅威ヲ感ズルノデハアリマセヌケレドモ、萬ガ一ニモ多數ノ議員ノ中ニ斯様な看板ノ爲ニ、議場ニ於テ自己ガ忠實ニ國家ノ爲ニ盡スベキ職務ヲ行フ場合ニ於テノ心理ニ、聊カデモ動搖影響ヲ受ケルト云フコトニナリマスレバ、私ハ日本ノ國政ヲ議スル上ニ於テ洵ニ遺憾千萬ナコトト思フノデアリマス、又斯様な看板ガ、今申上ゲタ狀況ノ下ニ於キマシテ多數立掛ケラレテ居ルト云フコトヲ、警察ノ權利、即チ國家ガ治安ヲ維持スル意味カラ申シマシテ其儘放任スル、或ハ若シ假ニモ之ニ警察官ガ諒解ヲ與ヘテ、許可シテ立デサセタト云フコトデアリマスレバ、果シテ警察ノ

取締ナリ、措置ト云フモノガ妥當ナルモノデアルカドウカト云フコトニ付テ、私ハ洵ニ判斷ニ苦シム、私ハ敢テ之ニ付テ私ノ意見ナリ批判ハ只今申シマセヌ、唯此事實ヲ申上ゲマシテ、此問題ニ付キマシテ、若シ内務大臣ト致シマシテ、國家ノ治安ヲ維持シ、我が立憲治下ニ於テ、此衆議院ノ議事ヲ圓滿ニ、適正ニ進行セシムル上ニ於キマシテ、相當考慮ヲ要スルト御考ニナリマスレバ、速ニ適當ニ御處置アランコトヲ此際希望ヲ述ベテ置キマス、尙ホ此寫眞ハ參考ノ爲ニ委員長ヲ通ジテ一部内務大臣ニ提出致シマス、若シ私ノ今申上ゲマシタコトニ付テ、委員長ヲ通ジ内務大臣ノ御所見ヲ伺ヘマスレバ洵ニ幸デアリマス

○小川委員長 内務大臣何カ御發言ガゴザイマスカ

○末次國務大臣 國民ノ中ニハ、國家總動員法案ガ是非必要ダ、是非議會ヲ通過スベキデアルト云フ風ニ考ヘテ居ル者モ少カラズアルノデアリマス、又之ニ反對ノ者モアルト思ヒマス、是等ノ人々ガ眞劍ニ其運動ヲ致シマス限り、サウシテソレガ治安維持ニ反シナイ限りハ、何レノ方ニ對シテモ偏頗ナ取締ハ出來ナイノデアリマシテ、内務大臣ト致シマシテハ、極メテ公正ニ治安確保

ノ上ニ於テ違算ナカラシコトヲ期シテ居ル
ノデアリマス、カヲ以テ思想的行動ヲ無理
ヤリニ取締ルト云フコトハ、何レノ方ニ對
シテモヤッテ居リマセヌ

○川崎委員 私ハ議事進行デゴザイマスカ
ラ、敢テ内務大臣ニ此際質問スルコトハ出
來マセヌ、唯委員長ヲ通ジマシテ、只今ノ
内務大臣ノ御所見ヲ伺ヒマシタ私達ハ、其
御所見ニ付テ承服スルコトハ出來マセヌ、
是ハ適當ナ折ニ更ニ發言ヲ求メテ、内務大
臣ノ御意見ヲ御尋致シタイト思ヒマス、議
事進行ニ餘リ時間ヲ要シマスコトハ恐縮ト
思ヒマスカラ、一應議事進行ニ付テノ發言
ハ是デ終リマス

○小川委員長 瀧企畫院總裁

○瀧政府委員 本案ノ各條ニ互リマシテ、
其大要ヲ御説明申上ゲマス、第一條乃至第
三條ハ總則的ノ規定デゴザイマシテ、第一
條ニ於キマシテハ、本法ニ謂フ所ノ國家總
動員ノ定義ヲ與ヘマシテ、其性質ヲ明白ニ
致シタ次第デアリマス、隨テ本法ノ大部分
ノ規定ハ、戰時又ハ實質上戰爭ト同視セラ
ルベキ對外事變ノ場合ニ限り發動セラル、
モノデアリマシテ、天災事變其他國內騷擾
等ノ場合ニ適用セラレナイコトハ固ヨリデ
アリマス、第二條ハ軍需ノ充足、國民生活

ノ確保、其他國防目的達成上重要ナル物資
ヲ以テ總動員物資トシ、第三條ニ規定致シ
マシタ總動員業務ト相竝シテ本法諸規定發
動ノ限界ヲ明ニシタモノデアリマス

第四條乃至第七條ハ主トシテ勞務ノ動員
ニ關スル規定デアリマス、第四條及ビ第五
條ハ帝國臣民及ビ帝國法人、其他ノ團體ガ
廣ク國防ノ業務ニ參加協力スベキ義務アル
コトヲ明示シタ規定デアリマシテ、第四條
ハ軍需工業動員法第八條及ビ第九條ト略、
同一趣旨ニ基クモノデアリマス

第六條ハ勞務ノ需給ヲ調整シ勞働條件ノ
適正ヲ圖ル規定デアリマス

第七條ハ勞働爭議ニ關シ適當ノ措置ヲ講
ゼントスルモノデアリマシテ、固ヨリ我國
ニ於キマシテハ戰爭ノ目的達成ヲ阻碍スル
ガ如キ勞働爭議ハ發生セザルモノト考ヘマ
スガ、斯ル爭議ノ防止ヲ必要トスルコトハ
申スマデモナイ所デアリマス

第八條乃至第十條ハ物資ノ動員ニ關スル
規定デアリマス、第八條ハ總動員物資ノ需
給ノ圓滑適正ヲ期スル規定デアリマシテ、
軍需工業動員法第六條ト略、同趣旨ノ規定デ
アリマス

第九條ハ輸出入ノ統制ニ關スル規定デア
リマシテ、輸出ヲ盛ナラシムルト同時ニ、

不要不急ノ物資ノ輸入ヲ抑制セントスルモ
ノデアリマス、本條ハ軍需工業動員法第六
條及ビ輸出入品等ニ關スル臨時措置ニ關ス
ル法律第一條ト略、同趣旨ノ規定デアリマス
第十條ハ軍需工業動員法第七條ト略、同様
デアリマスガ、當ニ軍需ノ充足バカリデナ
ク、民需ノ充足ヲモ顧慮致シマシタ規定デ
アリマス、尙ホ第八條ノ總動員物資ノ生産、
修理使用等ノ處分、第九條ノ輸出輸入ノ命
令、第十條ノ總動員物資ノ使用又ハ收用等
ニ依リ生ジマシタ損失ニ付キマシテハ、補
償ノ途ヲ設ケテアリマス

第十一條及ビ第十二條ハ主トシテ資金ノ
統制ニ關スル規定デアリマス、第十一條ハ
資金需給ノ適合ヲ圖ル規定デアリマシテ、
臨時資金調整法第二條及ビ第四條ノ規定ノ
趣旨ヲ擴充シタモノデアリマス、即チ資金
ノ需要方面ニ於キマシテハ、比較的多額ノ
資金ヲ吸收スル會社ニ付キ不要不急ノ用途
ニ資金ノ流入スルコトヲ制限禁止シ、或ハ
必要ナル生産設備ノ擴張改良、適當ナル減
價銷却等ニ備ヘシムルヤウ利益金ノ處分、
其他經理ニ關シ所要ノ命令ヲ爲サントスル
モノデアリマス、又資金ノ供給方面ニ於キ
マシテハ銀行、其他ノ金融機關ニ付キマシテ、
其資金ノ運用ニ關スル制限ヲ爲シ得ルヤウ

ニ致シタ次第デアリマス、第十二條ハ重要
ナル事業ヲ營ム會社ノ中デ、戰時急速ニ其
設備ノ改良ヲ要スルモノヲシテ、其資金ノ
取得ヲ容易ナラシムル爲メ社債ノ募集、又
ハ資本ノ増加ニ關スル商法ノ制限ヲ勅令ヲ
以テ緩和シ得ル途ヲ設ケタモノデアリマシテ、
臨時資金調整法第八條及ビ第九條ト同一ノ
趣旨デアリマス、尙第十一條ノ規定ニ依ッテ
金融機關ニ對シ資金ノ融通ヲ命ジ、又ハ有
價證券ノ應募引受若ハ買入ヲ命ジタ場合ニ
於キマシテハ、ソレノ損失補償ノ途ヲ設
ケテ居ル次第デアリマス

第十三條乃至第十六條ハ國家總動員上重
要ナル施設、其他諸權利ニ關スル規定デア
リマス

第十三條ハ戰時ニ於テ主トシテ軍需充足
ノ爲メ必要ナル施設ノ運営ヲ政府ノ指揮監
督ニ服セシメ、又ハ政府ニ於テ是等ノ施設
ヲ使用收用シテ、自ラ是ガ運営ニ當リ、必
要ニ應ジテ其從業者ヲ使用セントスルモノ
デアリマス、本條ノ施設ノ範圍ハ廣クハナッ
テ居リマスガ、軍需工業動員法第二條第三
條及ビ第四條ト略、同趣旨ノ規定デアリマス
第十六條ハ不要不急ト認メラル、事業設
備ノ新設擴張等ヲ抑制スルコトヲ主眼トシ
マシテ、臨時資金調整法第四條中ニアル規

マシテ、臨時資金調整法第四條中ニアル規

定ト略、同様ノ規定ヲ設ケマシタ外ニ、國家總動員上重要ナル事業ノ擴充ヲ圖リマスル爲メ、其設備ノ新設擴張等ヲ命ジ得ルコトト致シタ次第アリマス、尙ホ十三條ノ規定ニ依リ工場其他ノ施設、土地、工作物等ヲ管理使用又ハ收用シタ場合、第十四條ノ規定ニ依リ權利ヲ使用又ハ收用シタ場合及ビ第十六條ノ規定ニ依リ事業設備ノ新設擴張、又ハ改良ヲ命ジタ場合ニ於キマシテ、之ニ依ッテ生ジタル損失ニ付テソレノ補償ノ途ヲ設ケテ居リマス

第十七條及ビ第十八條ハ總動員ニ關スル各種事業ノ統制ニ關スル規定デアリマス、第十七條ニ於キマシテハ戰時ニ於ケル各種ノ事業統制ハ平時ヨリモ幾分強化スルノ必要アルコトハ已ムヲ得ザル所デアリマスガ、成ベク業者ノ自主的統制ニ俟ツベキコトヲ基調ト致シマシテ、此自主的統制ヲシテ國家總動員ノ必要ニ即應セシメタイト云フ考ヨリ所要ノ調整ヲ爲シ得ル規定ヲ設ケタ次第デアリマス、第十八條ハ第十七條ノ措置ヨリ一步ヲ進メマシテ、國家總動員上重要ナル同種又ハ異種ノ事業ノ事業主ヲシテ組合ヲ結成セシメ、共同購入、共同輸入、共同販賣等ノコトヲモ遂行シ得ル如ク致シタノデアリマス

第十九條ハ價格統制ノ根據ヲ定メタ規定デアリマシテ、物資ノ價格、運送賃等ニ付テ暴利ヲ取締リ、公正ナル價格ヲ保持セシメントスルノ趣旨ニ出デタ規定デアリマス第二十條ハ軍事、外交、財政經濟等ノ事項ニ付キ新聞紙其他ノ出版物ノ掲載ヲ制限又ハ禁止シ得ル途ヲ拓キ、之ニ違反シタ新聞紙其他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ得ルコトト致シマシテ、戰時ニ際シ其ノ影響ノ大ナルニ鑑ミ取締上遺漏ナキヲ期シタ次第デアリマス

以上第四條ヨリ第二十條ニ至ル規定ハ申ス迄モナク戰時ニノミ適用セラル、規定デアリマスガ、第二十一條乃至第二十六條ハ戰時急速ニ實施シタダケデハ十分デナイ事項ニ付キマシテ、戰前ヨリ所要ノ措置ヲ講ズル爲ノ規定デアリマス、第二十一條ハ平時ヨリ帝國臣民ノ職業能力ニ關シテ必要ナル調査ヲ致シマシテ第四條ニ規定シテ居リマスル徵用ノ制度ヲ適正且ツ圓滑ニ實施スル基礎ト致シマスルト共ニ、戰時ニ於ケル勞務ノ需給調整ニ備ヘントスル規定デアリマス

第二十二條ハ戰時、特ニ不足ヲ豫想セラレ、且ツ是ガ養成ニハ相當ノ日子ヲ要スル

所ノ各種ノ技能者ノ養成ニ關スル措置ヲ定メタモノデアリマス

第二十三條ハ戰時ニ於キマシテ供給力ノ十分デナイ物資ニ付キマシテ、其貯藏ヲ圖ル爲メ一定ノ業者ニ對シマシテ其物資ノ保有ヲ命ゼントスルモノデアリマス

第二十四條ハ國家總動員計畫ニ基キマシテ一定ノ者ヲシテ其計畫ヲ設定セシメ、兼ネテ是ガ演練ヲ爲サシメントスルモノデアリマシテ、恰モ防空法ニ依リ防空計畫ヲ設定セシメ、且ツ防空演習ヲ行ハシムルト同様、事業主ヲシテ一定ノ戰時増產計畫ヲ樹テシメ、教育的ニ註文ヲ發シテ實際ニ製造セシムルガ如キコトヲ豫定シテ居ル次第デアリマス

第二十五條ハ科學動員ト云フ言葉ノアリマス如ク、科學研究ガ國防目的ヲ達成スル上ニ於テ極メテ重要デアアルノニ鑑ミマシテ、平時ヨリ國家總動員上必要ナル試驗研究ヲ行ハシメントスルモノデアリマス、尙ホ第二十二條ノ規定ニ依ル技能者ノ養成第二十三條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ保有又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル試驗研究ノ命令ニ付キマシテハ、ソレノ損失補償又ハ補助金交付ノ方法ヲ設ケマシタノデアリマス

第二十六條ハ、軍需工業動員法第十四條ト同様ニ、國家總動員上必要ナル事業ノ助成ヲ爲シ得ルコトトシ、其事業主ニ對シ、總動員實施ノ場合ヲ考慮シ、所要ノ負擔ヲ課シ得ルコトトナッテ居リマス

第二十九條ニ於キマシテハ、補償ノ金額及ビ第十五條ノ規定ニ依リ拂下價額ノ公正ヲ保障スル爲メ總動員補償委員會ト云フ特別ナ機關ヲ設ケマシテ、其議ヲ經テ金額ヲ決定スルコトト致シテアリマス

第三十二條乃至第四十九條ハ處罰ニ關スル規定デアリマス、本案ガ國防目的ヲ達成致シマスル爲ニ、舉國一致ノ協力ヲ基調ト致シマスルコトハ多言ヲ要セザルコトト考ヘマスガ、國家非常ノ秋ニ際シマシテハ、一面法ノ嚴格ナル遵守ヲ要求セネバナラナイノデアリマシテ、所要ノ罰則ヲ設ケタ次第デアリマス、尙ホ國家總動員ノ準備及ビ實施ガ國防ノ安危ニ拘ハル極メテ重要事デアリマスル爲メ、第四十四條ニ於キマシテ特ニ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ニ付キマシテ、是ガ漏泄ヲ防止スル爲メ必要ナル規定ヲ設クルコトト致シテアリマス

第五十條ニ於キマシテ國家總動員ノ目的ガ協力一致ノ實ヲ收ムルニアルコトニ鑑ミマシテ、本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付

政府ノ諮問ニ應ズル機關トシテ、國家總動員審議會ヲ設クルコトト致シマシテ、本法運用ニ遺憾ナキヲ期シタイト考ヘル次第デアリマス

附則ニ於キマシテハ本法ノ施行ニ付諸般ノ準備ヲ爲ス必要ガアリマスル爲メ、其施行ノ期日ヲ勅令ヲ以テ定メルコトト致シマシタ外、本法ハ軍需工業動員法ニ代ヘルモノトシテ立案致シマシタ關係上、軍需工業動員法及ビ昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止スル旨ヲ明ニ致シマシタ、尙ホ右ノ昭和十二年法律第八十八號ニ依リマシテ軍需工業動員法中ノ戰時ニ關スル規定ガ現ニ實施セラレテ居リマスル關係上、必要ナル經過規定ヲ設ケテ居リマス

以上本案ノ大綱ニ付キマシテ御説明申上ガタ次第デアリマス

○小川委員長 午後一時半マデ休憩致シマス

午前十一時四十五分休憩

午後一時五十一分開議

○小川委員長 休憩前ニ引續キマシテ開會致シマス

○眞鍋(儀)委員 先程同志川崎君ヨリ内務大臣ニ對シ「國家總動員法案ニ反對スル者ハ現狀維持派ノ走狗ナリ」ト云フ立看板ニ付

テ質問ガアリマシタ、ソレニ對シテ内務大臣ハ何等善後ノ處置ヲ講ズル御言明ガアリマセデシタ、是ガ問題ニナラナケレバ率ザ知ラズ、委員會ニ於テ一タビ問題トナツテ、内務大臣ガ之ヲ默過スルモノナリトノ概念ヲ一般ニ與ヘマシタ際ハ、更ニ此林立スル立看板ヲ想起シナケレバナリマセス、此立看板ニ依ッテ審議シツ、アル議員ニ對シ、

何等カノ牽制脅威ヲ與ヘントスル動機ニ出デタルモノナリトノ私共ハ見方ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、何等カノ御處置ニナラヌト云フコトハ、餘リニ不穩當ナアナタノ建前デハナイカ、人間末次トシテ、是ダケノ立看板ガ犬ニ譬ヘテ林立シテ居ルモノニ對シテ、御取締ヲ爲サル意思ハナイカ、假ニ國家總動員ヲ強要スル者ハ「ファシズム」ノ走狗ナリ、斯ウ立看板ガ立ッたら、アナタハ御感ジガ好イカ、アナタノ良心ヨリ發スル本當ノ御返事ヲ承リタイ——委員長ヲ通ジテ御伺致シマス

○末次國務大臣 御答致シマス、色々前例モ取調ベテ見マシタガ、立看板ノ取締ハ交通ノ取締、又其内容ニ付キマシテハ出版法ノ取締ノ精神ニ依ッテ取締ヲヤッテ居ルノデアリマシテ、是ガ安寧秩序ヲ害スルトカ、公安ニ害ガアルト云フ事實ガアリマスレバ固ヨ

リ取締ルノデアリマス、他方ニ於キマシテ「ファシズム」デアルトカ、或ハ國家社會主義デアルト云フヤウナ、サウ云フ論議モ新聞又ハ出版物ニ多々現レテ居リマスガ、之ニ對シマシテモ極端ナ取締ハヤッテ居リマセス、思想ハ色々三分レテ居リマシテ、其捌ケ口ヲ求メテ居ルノデアリマスカラ、或ハ議會ニ於テ現ハレ、或ハ街頭ニ於テ現ハレ、又新聞紙出版物等ニ現レマスノハ、此世相ヲ如實ニ現ハシテ居ルコトデアリマシテ、是ガ公安、安寧秩序ニ害アル時ニハ、固ヨリ取締ニ遠慮ハ致シマセヌガ、從來ヤッテ居リマスコトガ——從來通り行ハレテ居ルノ一々抑止致シマススト云フト、其息拔キ、安全辦ガナクナリマススト却テ取締ノ上ニ困ルコトニナルノデアリマス、要スルニ從來ト別段變ツタ取締ヲ直チニヤラナケレバナラヌ、サウ云フ事態トハ當局ハ認メテ居ラスノデアリマス

○眞鍋(儀)委員 只今ノ内務大臣ノ御答辯ニ依ッテ、走狗ト云フ言葉ヲ使ッテ立看板ヲ立テ、居ルノハ、安全辦ナリトノ御答辯デアリマシタノデ、了承致シマシタ

○豐田委員 本案ヲ審議スルニ當リマシテ、必要ナル參考書類ヲ政府ニ提出方ヲ要求スルノデアリマス、其一々ノ内容ニ付キマシ

テ讀上グルコトヲ省略致シマシテ、委員長ノ手許マデ御届シテアリマスカラ、之ヲ政府ハ速ニ御提出アランコトヲ希望致シマス

○篠原委員 政友會ノ關係資料ノ請求ハ追ッテ尙ホ請求スル積リデアリマスガ、今ノ所ノ程度ニ於キマシテハ、書面ヲ以テ政府ニ御話下サイマシテモ、出來ルダケ早ク吾々ニ配付アランコトヲ希望致シマス

○西尾委員 社會大衆黨カラモ參考資料ヲ要求致シタイモノガ段々アルノデアリマスガ、取敢ズ書類ヲ以テ委員長ノ手許ニ差出サウニ致シテ居リマス、出來ルダケ早ク御配付下サルヤウニ御願致シテ置キマス

○小川委員長 政府ヨリ祕密會ヲ要求サレマシタ、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○小川委員長 ソレデハ委員議員政府委員ノ外御退席ヲ願ヒマス

〔午後一時五十八分祕密會ニ入ル〕

〔午後四時七分祕密會ヲ終ル〕

○小川委員長 是ヨリ公開致シマス

○山崎委員 議事進行ニ付テ簡單ニ御許ヲ願ヒマス

○小川委員長 宜シウゴザイマス

○山崎委員 先程問題ニナリマシタ立看板ノ件デゴザイマスガ、アノ件ニ付キマシテ

色々各議員カラ御意見ガ出テ居リマス、私共モ各方面デアノ看板ヲ見マシタ、内務大臣ノ御意見モ能ク分リマシタケレドモ、要ハ大事ナ議案ヲ審議スル上ニ於キマシテ小ナル感情ヲ持ツト云フコトハ面白クナイト思ヒマス、アレハ委員長カラ内務大臣ノ方ヘ通ジテ戴キマシテ、工合宜ク撤去シテ戴イタ方ガ感情融和ノ上ニ於テ宜クハナイカト、私共ハ斯ク考ヘマス、ドウカ委員長カラ内務大臣ニ其點ヲ能ク御傳ヲ願ヒタイト思ヒマス

○小川委員長 ソレデハ本日ハ是ニテ散會致シマス、明日ハ午前十時ヨリ開會致シマス

午後四時十分散會

〔参照〕

豊田委員要求ノ參考資料

一、一九三三年三月四日獨逸授權法

一、獨逸經濟有機的構成準備法

一、伊太利國家總動員法

一、佛國軍需工業國有法令

一、佛國國家總動員法案（一九三五年）

一、世界大戰ニ於ケル英國ノ重要戰時法

一、チエッコスロバキヤ國家總動員法

篠原委員要求ノ參考資料

一、チエッコスロバキヤ國家防衛法詳釋

西尾委員要求ノ參考資料

一、國民精神總動員實踐事項中

非常時經濟政策ヘノ協力ニ就テ

A、勤勞報國ノ實

B、勞資協力ノ實績

C、國債應募勸奨ノ實績

D、貯蓄獎勵ノ實績ヲ具體的ニ數字的ニ明示サレ度ク

ニ明示サレ度ク

二、各種勞働團體ノ國防、恤兵、皇軍慰問等、愛國獻金ヲ團體別ニ數字的ニ示サレ度シ

昭和十三年二月二十八日印刷

昭和十三年三月一日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局